

大分県新長期総合計画策定県民会議 第3回総合調整部会 委員発言要旨

日時：令和6年6月7日(金)10:00～12:00

場所：レンブラントホテル大分 2階 二豊の間

No.	項目	発言要旨
1	安心1 (3) 防災	・消防団の新入団員が少なく、地域の防災を担う人材が非常に少なくなっている。拘束時間などに対して、手当が見合っていないのも原因の一つだと思う。人材確保のためにも、処遇改善など手厚い支援を検討してもらいたい。
2	安心3 (1) 子育て	・目標指標「男性の育児休業取得率」は、最終年度のR15年度に85%と高い目標を掲げている。現状を考えると、達成するのは非常に難しいと思う。各企業等の取組をしっかりと積み上げていく必要がある。 ・また、単に育休の取得を増やすだけでなく、パートナーのケアや育児にしっかりと取り組むなど、中身を伴うものにしていく必要がある。
3	安心3 (1) 子育て	・こども政策は非常に大切。こどもが減っていく中で、いかに人づくりをしていくかを柔軟に考えていく必要がある。DXによりどこでも知識を取り入れたり、相互交流できる仕組みをつくるなど、教育の質を大事にする取組が必要である。
4	安心4 (1) 健康	・目標指標に「健康寿命」と「平均自立期間」の2種類の数字が並んでいるため、わかりにくい。健康寿命の公表が3年に1度なので、適切な進捗管理のために、平均自立期間も掲げていると理解はしているが、より県民にわかりやすくするため、健康寿命の方は、全国順位にしてもよいのではないかと。
5	安心4 (2) 医療	・人口減少下において、地域ごとに医療提供体制や医師を確保することは難しい。県全体で医療体制全般を組み立てていく必要がある。 ・医師確保については、救急や産科に加えて消化器外科も厳しい状況にある。4月から始まった医師の働き方改革の影響も出ていることから、しっかりと取り組んでももらいたい。
6	安心5 (2) 障がい者	・目標指標の「障がい者活躍日本一」総合順位については、県が独自に設定した指標ということだが、スタートラインとなる基準値が2位というのが気になる。これまで県がしっかりと取り組んできたという証ではあると思うが、本県が取り組んでいなかった分野も組み込むなどして、もう少し低いところからのスタートとする方がよいのではないかと。
7	安心6 (3) NPO	・計画の実行にあたっては、NPOや農業関連団体、商工団体、社会福祉協議会など、様々な団体の力が不可欠で、これらの団体が自立して運営できていることが大切である。 ・例えば、ある金融機関の調査によると、「こどもに財産を残す意向」を持つ人の割合は、2010年から2021年の間に、66%から47%に減少しており、こうした財産の一部を公益活動を行う団体に寄附いただくことはできないだろうか。同調査によれば、本県の相続に伴う家計資産の域外流出率は、全国と比較して高い状況にあることから、積極的に取り組んでみてはどうか。
8	元気1 (1) 農業	・農業従事者が年々減少している中で、農業産出額は現状維持することさえ難しいところではあるが、一方で、若手の中核的経営体等は着実に増えており、今回示された目標数値は、そうした経営体に取り組める実現可能な設定になっていると思う。
9	元気1 (1) 農業	・農業のスマート化について、具体的にどのような取組をスマート化と定義しているのかがいまひとつ分かりづらい。例えば、ハウスの天窓が自動的に開閉したり、農薬を自動で散布したりすることはスマート化と呼べると思うが、手作業の一部を機械化するだけでもスマート化と捉えているのだろうか。

No.	項目	発言要旨
10	元気1 (1) 農業	・現在、菊の脇芽を取る作業を自動化するロボットを企業と共同研究しているが、県が企業とマッチングしてくれて実現したという経緯がある。県がこうした支援を行うことは大きな強みだと思うので、もう少し外向けにアピールしてはどうか。
11	元気1 (2) 林業	・温室効果ガスの排出抑制に寄与する早生樹の再生林については、未来創造3(1)において基準値58haを830haに上げるという非常に意欲的な目標数値を設定しているが、一方で、当施策で掲げている林業産出額は10年間で5億円の微増となっており、目標値が低いのではないかと思う。
12	元気3 (1) 観光	・別府や湯布院だけでなく、県全域でおんせん県おおいたの魅力をアピールしていくことが大事。また、アバターの活用など、デジタル技術を活用した体験型・体感型による魅力発信も考えてみてはどうか。
13	元気4 (1) 海外展開	・APUの卒業生とのネットワーク構築など、東南アジアを中心に人的交流・ローカル外交を深めていくことで、大分県とアジアの連携が生まれてくる。そうした人的ネットワークの中から新たなビジネスチャンスを探れるようにしていくような視点が大事になってくると思う。
14	元気5 (1) 人づくり	・近年、起業を希望する学生が増えている。学生の県内定着を促進する手段の一つとして、県内就職の促進だけでなく、起業支援の取組も追加してはどうか。 ・また、大分県は若年者の人口当たり起業家数が全国上位という強みもある。こうしたことを計画の中に明示したり、目標指標に加えることも検討してはどうか。
15	元気5 (2) 女性活躍	・女性活躍を測る管理職割合の向上は、社会的な要請であるが、割合にカウントされないような、小さな店の店長等で活躍されている女性の方もいる。そうした方に目を向けていくことも大事 ・愛知県一宮市では、高校生を対象としたビジネスプランを募集したところ、ほとんどが女子高生からの応募だったと聞いた。こうした女性のパワーをどう吸い上げて日の目を見させていくかといった視点も大事だと思う。
16	元気5 (2) 女性活躍	・女性の管理職割合については、都市部に比べて女性の人材が少ないという社会的背景もあり、なかなか数値が上がらない現状がある。 ・そうした背景もあるが、やはり当面は管理職割合を引き上げていくことを目標にしっかりと取組を進め、5年後の計画見直しの際には「女性が輝く」という言葉そのものがなくなることが理想。
17	元気7 (1) スポーツ	・競技力向上には、素養のある選手をしっかりと育成できる指導者が不可欠。大分県としてスポーツ指導者を養成する枠組みがあると、さらに競技力も向上していくと思う。 ・プロスポーツも重要だが、アマチュアスポーツの振興も大分県の元気づくりに繋がると思うので、アマチュアスポーツの競技力向上にも力を入れてほしい。
18	元気7 (1) スポーツ	・大分県は、競技人口の少ないスポーツでも指導力が高い。国民スポーツ大会等で活躍している選手も多く、こうした実績をもっとアピールしてはどうか。 ・また、各市町村のスポーツ施設も充実している。学校を卒業するとスポーツを辞めてしまう方も多い中で、県内には社会人になってもスポーツを続けられる環境が整っていることも併せてアピールしてはどうか。
19	未来創造2 (1) 移住定住	・移住促進の成果を把握するため、本県への移住者にスマートフォンからアンケートに回答してもらうなど、コストをかけずに意見を集約する仕組みを検討すべきではないか。今後の魅力発信に向けても、良い点や課題をはっきりさせるべき。

No.	項目	発言要旨
20	未来創造2 (1) 移住 定住	・「大分はほどほどで丁度良い」、「大分は安心感があると離れて気づいた」など、本県出身の福岡県の学生の思いを目にした。こうした若者が感じる本県の良さについて、幼少期のうちから郷土への愛着形成の中で伝えていくことが大事ではないか。
21	未来創造2 (2) 地域 づくり	・上下水道が整備されていない地域や公営住宅が老朽化している地域がある中、若い世代が住み続けられる環境整備をしていただきたい。
22	未来創造5 (1) 教育	・本県では、幼児教育と小学校教育の接続が非常にスムーズにできている。小学1年生の教育においても、先生の話や、人の話を顔を見て、目を見て聞くという姿勢をしっかりとつくりたい。そうした強みをもっとアピールすべき。
23	未来創造5 (1) 教育	・「県立高校における専門学科の定員充足率」について、最終年度(令和15年度)の目標値95%は高すぎるのではないかと懸念。今後、学校数や定員数が減ることを想定したとしても、本当に達成できるのか心配である。
24	未来創造5 (1) 教育	・義務教育の段階から高校における専門教育等も見据えた総合的な教育を展開するなど、本県の産業を支える人材を育成してほしい。
25	未来創造5 (1) 教育	・本県の工業高校では、大学に引けを取らない非常に良い教育をしている。学校の魅力を向上させることも重要だが、その魅力を県民に伝えることが大事。専門学科で学ぶことが、多様な進路や就職につながることをもっと発信すべき。 ・そこに踏み込んでいけば、「県立高校における専門学科の定員充足率」の最終年度の目標値95%の達成もあり得ると思う。
26	未来創造5 (5) 教育	・「県内大学等の入学定員充足率」、「県内大学等卒業生の県内就職率」は、いずれも非常に高い目標値だと思うが、県も大学も覚悟を決めてともに目指すべき目標だと考える。 ・少子化が進む中、大学の存続が危ぶまれているが、地域にとって大学は、人材の供給源として重要なインフラの役割を担っている。我々大学側も目標達成に向けて、大学の敷居を下げ、企業とも連携して学生が地域に残りたいと思ってくれるような取組を本気になって進めていきたい。
27	未来創造5 (5) 教育	・「おおいた地域連携プラットフォームによる連携強化」に加えて、重要な要素である「県内外の大学等との連携」についても、明示していただきたい。
28	時代の要請	・時代の要請や潮流の変化1③について、限られた人材の中で人口減少社会に適應するためには、DXによる効率化・生産性の向上に加えて、人材の高度化の必要性についても記載すべきではないか。
29	計画全般	・高い目標値であっても、現時点で目指すべき目標であれば設定すべきだと思う。高い目標は、抜本的な対策を考える上でも必要。計画を実行する過程で、それが不適切だったとしたら、柔軟に見直すべき。そうすることで、真に実効性を伴う計画になる。